

# 営農ウィークリーNEWS



J A 京都中央 平成28年1月26日 No.277 作成者 上田 由里子

## ミナミアオカメムシ被害粒調査を実施



1月13日、京都府農林水産技術センター農林センターにて、「ミナミアオカメムシ」による斑点米被害粒調査を行いました。

平成22年に京都府で初確認された「ミナミアオカメムシ」は発生確認以降、水稻への被害が拡大しており、近年、農産物検査における格付け理由の、約5割がカメムシ類による被害となっており、当JAにおいても、防除対策研修会を開催するなど、対策を強化しています。

調査地域は、被害が拡大している南部地域と西部地域の水稻圃場や、河川敷雑草地帯で行ってきました。

今回、収穫期に採取した粃を乾燥調製し、玄米にしたものを1粒ずつ確認し、被害度の程度からカメムシ類の大型種・小型種を判別しました。

今後は、「ミナミアオカメムシ」越冬調査を南部地域で行う予定です。



大型カメムシ被害粒



小型カメムシ被害粒



ミナミアオカメムシ  
若齢幼虫

## 西洋カラシナ開花を確認

—TAC information—



平成28年1月8日、桂川河川敷にて、西洋カラシナの開花を確認しました。

西洋カラシナは、特にミナミアオカメムシの越冬や、えさの確保場所として確認されており、発生の目安となる作物として注視しています。

西洋カラシナは、3月頃から開花しますが、今年は暖冬の影響により、連年よりも早い開花となり、ミナミアオカメムシについても越冬個体数が多いと予測されますので、防除の際は、圃場や周りの環境を十分ご確認ください。

